防災・安全

秋の道路をきれいに！ 官民合同の道路クリーンキャンペーン

令和８年10月１日(木)、宮城県建設業協会仙南支部（22社・71人）と大河原土木事務所（18人）が合同で「道路クリーンキャンペーン」を実施しました。昭和63年から続く39回目の今回は、管内の国道・県道計36・７kmで清掃を実施。約90kg（可燃40kg・不燃50kg）のごみを回収し、道路の現況把握と道路愛護精神の啓発を図りました。大河原土木事務所長の挨拶では「地道な活動が道路利用者にとって道路を大切に思う心を広げる力になってほしい」と強調。みんなが気持ちよく利用できるよう、一人ひとりがマナーを守り、道路を大切にする温かい心を地域全体へ広げていきましょう。

【大河原土木事務所】



晴れ渡る空の下で開催された出発式



沿道で安全に配慮しながら清掃に励む参加者

農林畜産業

省力化や品質向上に向けたスマート農業の普及が進んでいます

農業者の担い手不足や大規模化が進むなか、最新技術を活用した「スマート農業」に取り組む農業者が増えています。

最新のトラクターやコンバイン、農業用ドローンなどでは、２~３cmの精度で正確な位置情報を取得できる「RTK（リアルタイムキネマティック）システム」を搭載し、自動で耕うんや収穫、農薬散布などを行うことができます。

また、衛星画像や気象データから作物の生育状態を把握するシステムも導入され始めています。ほ場ごとの生育状態を簡単に把握することができ、作物の生育量や生育ステージにあわせて肥料の量を調節したり、農薬の散布のタイミングを見極めることで、収量や品質の改善も図ることが可能になってきています。

【地方振興事務所　農業振興部】



農業用ドローンを使った農薬散布



衛星画像からほ場ごとの稲の生育量を色分けするシステム